

～ 不妊・去勢手術することにより防げること ～

- ・ 性的なストレスや不安、攻撃、防衛、衝撃から開放され、本能を抑えるため精神的なリラックスが得られる。
- ・ けんかも少なくなり、従順になり事故がおきなくなる。
- ・ 卵巣と子宮、精巣に関連した病気は飼い主さんが発見しがたいので手遅れや重症になったりする。しかし、手術で取り除いてしまえば、それに関連した病気は一生おきないと言われていています。

手術により防げる病気(犬・猫)	
オス	ブルセラ、睾丸炎、睾丸の腫瘍、前立腺腫瘍、肛門周囲腺腫、会陰ヘルニア
メス	子宮蓄膿症、子宮内膜炎、卵巣子宮の腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、乳腺腫瘍

手術を推奨している時期(犬・猫)

去勢 (6ヶ月～8ヶ月)	猫の去勢手術が早すぎると、尿道の発達が悪くなり、尿路結石による尿路閉鎖(尿の出口が詰まる病気)になり易いと言われています。尿道の大きさが大きくなるまで待ってから受けさせると良いでしょう。
不妊 (6ヶ月～8ヶ月)	発情期の手術は乳腺腫瘍の危険を減らします。 (初回発情前に手術を実施すると犬では乳腺腫瘍が約96%発症しないというデータがあります)

相模どうぶつ愛護の会

〒257-0003 秦野市南矢名 1130-102

TEL/FAX: 0463-0015